

## 第3回小松島市総合教育会議議事録

1. 日 時 平成29年2月14日（火）午前11時00分～午前12時10分
2. 場 所 小松島市教育委員会2階会議室
3. 出席者 濱田市長  
森本教育委員，谷教育委員，渡部教育委員，東根教育委員，吉岡教育長
4. 事務局 中島教育次長，西照教育政策課長，前田学校課長，森田学校課主幹  
藍沢秘書政策課長，村山教育政策課課長補佐，西嶋学校課課長補佐，  
高瀬秘書政策課課長補佐
5. 概 要
  - (1) 開会
  - (2) 市長挨拶
  - (3) 協議事項
    - ①小松島市学校給食カレンダーについて
    - ②就学前教育・保育のあり方について
    - ③小松島市教育振興計画（第2期）について
    - ④教育委員会の点検・評価報告書について
  - (4) 閉会
6. 議事の経過 別紙のとおり

(藍沢秘書政策課長) それでは、定刻がまいりましたので、ただ今から、「平成28年度第3回小松島市総合教育会議」を開催させていただきます。私、秘書政策課長の藍沢でございます。よろしくお願いいたします。まず、資料の確認をさせていただきます。お手元の次第にもございますが、資料としては学校給食のカレンダー、就学前教育・保育のあり方について、小松島市教育振興計画(第2期)、平成28年度(平成27年度対象)教育委員会の点検・評価報告書、以上4点、資料でございますでしょうか。総合教育会議につきましては、設置要綱で規定しておりますとおり、市長が会を招集することとなっておりますので、以降の会議の進行につきましては、市長にお願いしたいと存じます。市長よろしく申し上げます。

(濱田市長) 皆さんおはようございます。本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。私も、2期目となり、新たな気持ちで市政に取り組んでまいりますので、どうぞよろしく申し上げます。

さて、平成29年度からの「小松島市第6次総合計画」では、本市が目指すべき都市像としての「未来へ輝く 希望と信頼のまち こまつしま」のテーマに沿って、これからの10年間、小松島市に住みたい、働きたい、安心して子育てができるまちづくりを推進してまいります。

特に、教育の部分では、「教育の充実と文化の振興」に力を注ぎ、「ひとりひとりが輝けるまちづくり」を実現していきます。本日の議題にもある「教育振興計画」の教育理念である「市民一人ひとりが輝く教育の振興と創造」に基づいて、教育委員会とともに、家庭や地域、教育機関が一体となって、心豊かな人づくりを進めて参りたいと思っておりますので、実現に向けて共に手を携え、がんばってまいりたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

これからの進行は座ってさせていただきたいと思っておりますので、ご了承いただきたいと思っております。会議次第にあるとおり、本日の協議報告事項について、まず小松島市学校給食カレンダー並びに就学前教育・保育のあり方について、事務局から、一括して報告・説明をお願いいたします。

(西照教育政策課長) 事務局の教育政策課でございます。学校教育カレンダーと就学前教育・保育について2点ほど報告させていただきます。まず1点目、お手元に配布の小松島市学校給食カレンダーにつきましては、子供たちの栄養バランスを考慮して作成された学校給食の献立の中から、テーマに沿った旬の料理を選定し、そのレシピを掲載した、学校給食カレンダーを市内幼小中学校の児童・生徒の家庭に配布します。

家庭における食育と児童・生徒の望ましい食習慣の形成に努めるとともに、あわせて旬の地場産物を使用したレシピを家庭に提供することにより、地域産業等への理解と知識を深め地産地消の推進を図ります。平成28年度から平成30年度までの3か年を事業計画期間として平成28年度は、「野菜摂取量の増加」に関する取組をメインテーマとして、作成しております。初年度(平成28年度)は、4,000部を作成し、3月上旬に各幼小中学校を通じて、各家庭に配布をいたします。

就学前教育・保育について、説明申し上げます。別添資料1、資料2をご覧くださいと思います。具体には幼稚園・保育園・認定こども園の入所・入園の状況と、それを踏まえた、今後の施設等も含めたありようという事でございます。まず1点目の資料1をご覧くださいと思います。平成29年度の幼稚園・保育園・認定こども園の募集状況を踏まえ、過去3年間の入所入園の状況を表した資料であります。平成29年度の状況で申しますと、幼稚園が90名、保育所が431名、認定こども園が合わせて464名という入所入園の状況になっておりまして、概ね平成27年度と比較をしますと、出生数の減少などもあり、幼稚園がマイナス66名、保育所(認定こども園を含む)がマイナス92名となっております。

資料2につきましては、これまでの入所入園状況や今後の推移を勘案するなかで、平成29年度で、廃園、廃所する幼稚園、保育所をお示しいたしております。幼稚園については、5園を廃園、保育所については、1所を廃所するという事で、施設の跡地と言いますか転用等も含めた再利用等の方針については右端の方に解体をするとか、児安幼稚園については児安学童保育クラブへの転用、芝田幼稚園につきましては小松島老人いこいの家建設用地への転用と。北小松島幼稚園につきましては北小松島公民館への転用という事で、それぞれお示しております。なお、目佐保育所につきましては、解放センターの中という事で、改めて児童館への転用を予定しております。以上でございます。

(濱田市長)           ありがとうございます。ただいまの報告につきまして、何かご意見などはございますでしょうか。

この、給食のカレンダーに関連して、現在学校で使っている食器って、もう少し良くはならないですか。

(西照教育政策課長)   古くなったらその都度更新はしているんですが、なかなか割れ物とかありますんで、どうしても画一的になってしまいます。ただ南中学校にしましては、ほぼ新しいものを使っているとします。

(東根委員)           ちょっと忘れてしまったんですけど、12、3年前に、アルミのでは見栄えが悪いので、食器を買い換えました。少しところどころにポイント的に絵柄が入ったのが3つか4つ種類があって、各センターとか学校で選びました。だからまだあまり、長い期間経ってないでしょうね。子どもの数が少なくなったら、数もあまり多くはならないと思いますが、それを随時補充している状況だと思います。

(濱田市長)           森本委員さん、これからのあり方とか、意見なり要望とか述べていただけたらと思います。

(森本委員)           就学前の教育について、認定こども園化する方向へ流れておることに私は賛成です。給食カレンダーについては、家内も栄養教諭しておりましたので、こういう立派なものがで

きて非常に嬉しいですけども、家内がしておるときにはこういうアイデアっていうのは出てこなかったんですけど、もっと早く出ておったら子どもも朝ごはんを食べて学校へ来ることができたり、肥満児ができなかったりとか、いろいろ思っておりました。で、これを家庭に1部ずつかなと思ったら、子どもの数だけ家庭へ配るというから、家庭に1冊か2冊あればいいわけですから、余った分がおじいさん、おばあさんのお家とか、小松島市外のお家の方へあげますとか言って、親戚の方へ配ったりして、「小松島がこんな取り組みをしているんだな。」と、非常に広がっていくんじゃないかなと思いました。それほど素晴らしいアイデアだと感心しております。小松島の名前が上がるんじゃないかと思ったりしております。

(濱田市長) これをふるさと納税にも1部付けてあげるような方向性とかを検討して、本当に素晴らしいものができているので、それを小松島から発信してもらいたいと思います。皆さんどう思いますか。

(藍沢秘書政策課長) 4月からのカレンダーになりますので、小松島の魅力発信というか独自の取り組みなどで、教育政策課と調整しますけども、ふるさと納税の返礼品に限定で付けるなどの考えもございますので、よろしくお願いします。

(谷委員) 私は就学前教育・保育のあり方の件なんですけども、先ほど森本委員さんもおっしゃったように、認定こども園への移行という事については、おそらく国の政策としてもそちらの方向になっているんだろうなという部分もあって、別に異議はないですけども、市長がこの間就任された際に、小学校の再編の事もおっしゃっていたんですが、今回のこの就学前教育・保育のあり方も含めて、人口が、子どもの数が減っていくという事に対する対処については、その都度こうやって考えていく、2、3年ぐらいのスパンでも考えていくという事は当然の事だと思うんですけども、この先少子化に対応する事ばかりじゃなくて、やはりこうやって市長とお話するんだったら、人口を増やしていく考え方もどんどん出していけないと、どんどん縮小縮小という事になりますと、極端な話、小学校も1校でいいんじゃないかという話になっていくと、何の未来も見いだせないというような感触があるので、できればこうやって学校の再編も考えると同時に、子ども達が小松島で学ばせたらいいなという、親も、子どもの教育は小松島でやらせたらっていう、理想的な話があるんですけども、そういう展望を持った形を作っていた方が、この先もっと長いスパンで言うといいんじゃないかというふうには思いました。何か縮小縮小の話ばかり、私が教育委員になってもう5、6年になりますが、再編とか縮小ばかりで、人口少ないけど、日本中でも人口減っているけども、小松島だけは人口増えて子どもを学校へ行かせるのも充実しているという話に、長い先の理想かもしれませんが、そういうふうな考えをどんどん出していけばいいんじゃないかというふうには思っております。以上です。

(濱田市長) ありがとうございます。

(藍沢秘書政策課長) まっとうな市の将来像、他市町村との競争に打ち勝つという意味での地方創生の考え方だと思います。県内同士で引き合う分については県の相対的な人口は増えないので、他県から呼び込む移住定住施策、あとは子育て施策あたりもある程度インセンティブを与えるような市の取り組みっていうのを、市外から移住してくるような情報発信を含めて、実は総合戦略っていうのを昨年秘書政策課で作っております。やはり数値的には先程委員さんが言ったように出生率とかも落ちておりますし、こういった状況を打開していくために、今後インフラ基盤の整備とともに子育て施策の充実についても市長の方でお考えだと思います。今後のまちづくりの構想の中で、他県から人を呼び込むような政策について、打ち込んでいかないといけないという認識で市長も考えておられると思いますので、担当課としても政策立案の部分でブラッシュアップかけていきたいと考えておりますので、お願いします。

(渡部委員) 就学前教育というか、やはり3歳ぐらいで自分の脳が決まる、三つ子の魂と言いますように、そのままにしておいては、子ども達は、そのままの姿で育ちますので、教育というのは本当に大切だと思います。だから認定こども園にしる幼稚園にしる、しっかりとコミュニケーション力とか協調性とか、いろんな人の中で調和できていくという事を小さい時から身に付けていくという事を何らかの形できちんとして。この頃個性個性と言って子どもの個性だからと言うので放っておいたりしますが、それではなかなか社会に出て適応できない子どもになってしまうのではないかと思います。だからしっかりと小さい時に、さっきの谷委員さんがおっしゃったように教育に小松島市は特化して輝くまちというか、いつか市長さんもおっしゃってましたけど、例えば英語のまち小松島とかいう感じの、小さい時から教育に関しては、小松島に任せたらというような何かを打ち立てて、小学校に行っても小松島の子はすごくきちんとルールを守ることができるというような感じのところで何かを打ち出せればいいのではないかと思います。

「ママのスマホになりたい」という絵本がありまして、お母さんがスマホに熱中しているの、自分のことをもっと見て欲しくて、「大人になったら」の話のときに「ママのスマホになりたい」というような内容だったかと思います。この母親は、子どもを見るという事をあまりしてないと思うので、そういうのが見えるところが園であったりすると思うので、しっかり関わってあげて、一人ひとりに向き合ってあげるような所をしっかり作ってもらえたらと思います。以上です。

(東根委員) 給食カレンダー、森本先生もおっしゃってましたが、素晴らしいのができて本当によかったかなあとと思います。学校給食に私も関わった時があったので、非常にいいものができたかなあと思いました。学校給食は1人1食270円から、今300円くらいになっているんでしょうかね。それであれだけの、栄養的な事も考えながら、地産地消も含めていろんなことが集約されておるので、素晴らしいなあとと思います。私達も現場で仕事している時に、よく職員同士で、学校給食のおかげで1日過ごしているなって大人同士の話の中にもあります。栄養バランスがありますし、朝はそこそこに食べて来て、昼しっかりとバランスのとれた食事を

摂り、夜は暴飲暴食をしないように心掛けながらしますが、そういう土台が今私達生活習慣病っていうのに悩みつつある年代ですので、子どものころからそういう習慣というのがついていたらいいなあと思いました。なかなかそういった食習慣っていうのは身に付かないのが現状で、家族の中でも食事の事は難しいなあと思いつつあるので、これは本当にいい啓発になるのではないかなと思いました。小松島、まだまだ他に、イチゴとか今の季節だったら菜の花とかあるんで、いろいろ欲を言えばたくさんの方ができるんだなと思いました。

(濱田市長)            ありがとうございました。

(吉岡教育長)        就学前教育・保育のあり方についてという事で、あり方検討委員会の方向性よりも、より進んだ形で幼稚園を集約と言いますか、方向性が進んでいる。これは止めるべき方法っていう具体策はなくて、一方では認定こども園化等、それから子育て支援新制度の流れの中での方向だと思うんですけど、幼稚園の先生方も頑張ると言いますか、教育論文の表彰があるんですけど、もちろん幼稚園だけでなく小学校・中学校の先生方の論文審査を経て市長賞をはじめ、表彰式があるんですけども、幼稚園、2つ研究が出されてましたけども、それぞれの園だけでなく、小学校との連携であるとか、幅広い形で、やっぱり「教育は人なり」と本当言いつくされた言葉ですけど、そこらあたりで幼稚園の先生方もこういう少子化の中で幼稚園教育のあり方等々、不安もあるいろいろな思いを持って過ごされてるし、教える側のサポートがまず1点思っています。

先程人口増の定住化等、いろいろ策があると思うんですけども、非常に厳しい状況にあります。幼稚園だけでなく、小学校の再編だけでなく、公民館の事もありますし、勤労青少年ホーム等の今後の利用の仕方等も含めて、教育委員会も進めていかなければならない課題であり、再編に焦点を絞るわけではなくて、幼稚園に焦点を絞るわけではなくて、いわゆる教育環境の整備っていうのも早急に進めていく中で、先ほど出た学校教育の小松島市の特色とか、そういうものに繋げていくような方向性をできるだけ早く見通しを立てていかなければならないなというふうに、非常に課題が多いんですけど、先延ばしっていうのじゃなく、できるだけ早く方向性をというふうに考えていますと、ちょっとまとまりがないんですけども、以上です。

(濱田市長)            ありがとうございます。私からも、学校の給食カレンダーを作っていただきたいと、本当に素晴らしいカレンダーができて、感謝申し上げます。委員の皆様から指摘がありましたように、野菜だけでなく海の幸とか、今言っていた果物とかそういうふうな季節季節のところに子ども達の絵を添えて、そこに果物、春ならイチゴとか、夏は稲穂の実っているところとか、冬だったら柑橘のミカンが収穫できるような所とか、ヤマモモとか、そういうふうな四季折々の写真、もし誰か写真が上手な人がいたら、そういうふうなのを取り入れていただいたら、もっと充実するんじゃないかなと思いますので、よろしくお願いします。

そしてまた就学前の教育については委員の皆様もおっしゃったように、これからの国際社会の中で耐えうるような子ども達を育てていかないといけないというんで、公立の認定こども園においても、例えば英語を取り入れた先生を配置するとか、地域の独自性を持たせた教育も必要ではないかと。小松島は海と山に囲まれていますので、和田島だったら、例えば砂浜で1週間に1回は遊んで、砂浜の移り変わりを見てもらうなど、和田島の海をいかした教育の方法。山間部へ行ったら山ならではの、裸足で遊んでいるとかいう教育もたまにテレビで見ますよね。そういうふうな特化したような教育も必要かなと委員さんからの意見の中で感じました。特に就学前の教育は0歳児から6年間という長きにわたる教育になりますので、小松島ならではのより良い就学前教育について、各委員からの意見を今後の参考としてください。

では、次に、教育振興計画(第2期)について報告・説明をお願いいたします。よろしく申し上げます。

(中島教育次長) 第1回総合教育会議においてご報告しました教育振興計画(第2期)につきましては、1月23日に、教育振興計画策定審議会 三橋会長より、教育長へ答申があり、教育委員会での審議を経て、本日の定例会において、正式に策定いたしました。それでは、計画の詳細につきまして、学校課 森田主幹より説明いたします。

(森田学校課主幹) 失礼します。お手元に配らせていただきました、水色の冊子にて説明させていただきます。よろしく申し上げます。まず、12頁をご覧ください。第2期における教育理念・教育目標は、教育大綱に基づき、また、第1期計画を継承する形で、「教育理念:市民一人ひとりが輝く教育の振興と創造」、「教育目標:郷土に誇りを持ち、一人ひとりの人権を尊重する、創造性豊かで輝く人づくり」としました。

14頁をお願いします。計画期間は、小松島市第6次総合計画の前期と同じ、平成29年度から平成33年度までの5年間としております。PDCAサイクルにより、毎年、具体的な改善を図りながら、進めてまいります。

15頁をお願いします。ここからは、この計画を進めていくためのプログラムについてですが、重点目標には、新たに「就学前教育の充実」を追加し、「1 家庭教育の充実と地域との連携・協働」、「2 就学前教育の充実」、「3 『生きる力』をはぐくむ学校教育の推進」、「4 生涯学習文化の創造」としております。

16頁からは、家庭教育、地域との連携についてです。「(1)家庭の教育力向上への支援」では、基本的な生活習慣の育成・啓発、読書活動の推進、17頁、「(2)家庭・学校等・地域の協力体制」では、子育て相談や一時預かり、未就園児への園開放などを行い、家庭・学校等・地域・行政が一体となって、家庭教育を支援してまいります。

18頁からは、就学前教育についてです。「(1)幼稚園・保育所・認定こども園における教育の充実」では、本市の実情に合う教育・保育課程を策定し、充実した就学前教育を実施してまいります。

19頁、「(2)各園・所及び関係機関の連携・協働」では、各園・所どうしの、また、小学校や特別支援教育機関との連携・協働を図ってまいります。

20頁からは、学校教育についてです。「(1)総意を結集した学校運営」では、次期学習指導要領等のねらいに沿い、「生きる力」を育成する教育課程を編成し、各園・校が、相互に、また、家庭・地域・関係機関と連携・協働しながら、創意工夫のある学校運営を行ってまいります。

22頁、「(2)確かな学力の育成」では、各校での学力向上実行プランを推進し、主体的・対話的で深い学び「アクティブ・ラーニング」の充実を図ります。

23頁、「(3)豊かな人間性の基礎となる心の育成」では、道徳教育、生徒指導、人権教育、自然・社会体験活動の充実、郷土を誇りに思う心の育成をめざします。また、学校・家庭・地域・関係機関の連携を強化して、いじめ・不登校防止の徹底を図ります。

25頁、「(4)健やかな体の育成」は、第1期計画では生涯学習の中で記載されていた施策ですが、学校教育に関わる内容を、こちらに記載することにしました。ここでは、体力の向上、生活習慣病予防、薬物乱用防止教育、食育の推進、学校給食の充実などを図り、生涯にわたって健やかに生き抜く力を育成する教育を推進します。

26頁、「(5)特別なニーズに対応した教育の推進」では、障がいのある子ども、外国籍や外国から帰国した子ども、不登校など学校に適應できていない子どもへの支援を行います。

28頁、「(6)安全・安心教育の徹底」では、学校での、地域と連携した危機管理体制の強化、防災・安全教育の充実、通学路の安全確保などを図ります。「(7)21世紀を生き抜く力の育成」では、環境教育、外国語教育、情報教育、キャリア教育を推進し、様々な社会変化や社会問題に対応する力を育成します。

30頁、「(8)教育環境の整備・充実」では、学校施設の充実、学校のエコ化・ICT化、学校再編計画の推進を図ります。教育委員会活動では、総合教育会議を通じた市長との協議、有識者による点検・評価を行います。

31頁からは、生涯学習についてです。「(1)スポーツの振興」では、総合型地域スポーツクラブ、各種スポーツ団体の活動の充実、体育施設の整備・充実などを行い、スポーツに取り組める環境づくり、健康寿命の延伸を図ります。

32頁、「(2)人権教育の徹底」では、家庭教育、社会教育、企業職域における人権教育、人権教育振興協議会の活動を中核とした人権教育・啓発を推進してまいります。

33頁、「(3)生涯学習環境の充実」では、生涯学習講座、公民館活動、図書館機能の充実を図り、地域の活性化につながる生涯学習環境社会の構築をめざします。

34頁、「(4)芸術文化の振興と文化財の継承」では、国・県・市指定を含めた文化財の保存・継承・広報、地域の支援者へのサポートや人材育成などにより、地域の文化を後世へ伝えていく責務を果たします。

推進プログラムは以上でございます。今後は、策定を広く周知し、家庭・学校等・地域・行政が力強く連携・協働し、小松島市の教育理念を具現化する教育の推進をめざしてまいります。説明は、以上でございます。



(濱田市長) はい、ありがとうございます。時間の都合で次の教育委員会の点検・評価報告書について報告した後に、この2点について委員さんからご意見いただきたいと思いますので、先に教育委員会の点検・評価報告書についてお願いします。

(中島教育次長) 教育委員会点検評価報告書をご覧いただきたいと思います。御承知のように、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、すべての教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況につきまして点検評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、市民に公表することが、平成20年4月から義務づけられております。そして、それを行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする規定されておりますことから、本市では、外部評価の委員さんとして、元北小松島小学校校長でいらっしゃいました木村哲也氏、元芝田小学校校長でいらっしゃいました梅山眞澄氏、現在徳島文理大学就職支援部課長、一般総合学科准教授でいらっしゃいます井内孝明氏に御依頼をいたしましたところ、快くお引き受けをいただいて、今日の総合教育会議での報告に至っているところでございます。三人の方に審査をお願いいたしました日には、1月13日の金曜日と1月31日の火曜日でございます、それ以外にもご自宅でご審議いただいております。各ページの内容を簡単に申し上げますと、1ページから5ページまでは、先ほど申しました点検評価報告書を作成する趣旨でありますとか、教育委員会組織・会議の開催状況・その他の主な活動等を掲載させていただいております。

6ページから8ページまでは、各課で所管しております主な事業につきましての事業評価を各課からいただいております。①の新中学校建設事業、②の児安小学校西門整備事業、③の小学校施設修繕事業、④のインターネット環境維持事業、⑤の外国語指導助手招致事業、⑥の人権教育推進事業、⑦の文化財保護事業、⑧の市総合グラウンド管理事業につきましての事業の概要・事業評価・総合評価・教育委員会内評価でございます。これにつきましても、平成27年度を対象とした点検・評価の結果でございます。

9ページから12ページまでは、先ほど御紹介させていただきました三人の外部評価の委員さんからいただいております、全般的な意見、各事業に対する意見でございます。全般的な意見としましては、教育委員会の施策として、時代の変化や市の現状に対応した取組が必要となることから、今後におきましても市行政の最重点施策の一つとしてとらえ、実りある教育行政の実行を望むと結んでおります。各事業に対する個別の意見につきましては割愛をさせていただきます。

最終ページの13ページにつきましては、平成27年度4月時点の教育委員会制度の概要と組織のイメージ図でございます。以上簡単でございますが、御説明とさせていただきます。

(濱田市長)

どうもありがとうございます。ただいまの小松島市教育振興計画(第2期)について、教育委員会の点検・評価報告書について、この2点について委員さんから少し、ご意見いただけたらと思いますので、森本委員さんの方からよろしく願いいたします。

(森本委員)

これを読ませてもらって、「市民一人ひとりが輝く教育の振興と創造」という事で、市長さんがいつもおっしゃっている「一人ひとりが輝く、市民を作る」という事で理念が書かれておるわけですが、この中で、郷土に誇りを持ち豊かな社会を実現するという事で、郷土に誇りを持ち、郷土愛が育ったら、その地域が素晴らしいものになると思うので、その地域へ残ってくれて人口減には繋がらないだろうという期待を寄せられました。私が木頭へ赴任した時に教育長や村長さんから「地域に残ってくれる人を育ててくれないか。」と。高等学校へ行ったら皆、下へ降りてしまって帰って来てくれないという事ですね。今度は40歳前後で神山町上分へ行きました。その時に、「『神山の郷土は素晴らしいんだ。』と郷土愛を育てて、神山に残ってくれるような教育をしてくれないか。」と。文科省の指定を受けて3年間、道徳教育で郷土愛を育てるといって教育をしてきました。地域の偉人なんかを資料にした道徳資料を作成したりして頑張ってきたんですけど、教え子が地元に残っておるかと言ったら、私が知っておる名前が片手で数えられるくらいしか地元に残っておらないというか、人口増に繋がってなくて、人口がだんだん減ってしまっているという現状なので、こういうところで郷土愛を育てるのは大変大事なんですけど、その結果がまだ見えてないんですよ。一旦は就職して県外へ出るけども、定年になって地元、「小松島ってこんな所が良かったんだなあ。」、「上分ってこんなところが良かった。」、「木頭はこんなところが良かった。」、「じゃあ、帰ろうか。定年退職したらそこで頑張ろう。」っていうふうに戻って来てくれたら私は嬉しいんですけど、今のところ見えないのが残念なんです。そんなのを感じております。小松島を、「自分が今住んでいる所嫌いだ。」ってされちゃうと困るので、郷土に誇りを持つような道徳教育とか、計画で書かれておりますけど、素晴らしいので先生方に実践してもらって、何年先になるか分からないですけど、本当に小松島に住んで良かったと戻って来てくれるような人が育てられたらいいかなど思ったりしております。

それと、もう1点は理念とか教育方法は素晴らしいですが、それを実施していく学校、教育していく先生。教育っていうのは先生と子どもとの信頼関係がないとだめなんです。なので、小松島では今あんまりいじめとか、あるいは新聞に載るような事は起こっておりませんが、先生と子どもの信頼性と、保護者との信頼関係を大事にして教育していきたいと思っておりますし、私達退職した教員が地域で子育てに参画できるように、私退職公務員連盟の世話させてもらってるんですけど、退職した先生方に、地域のために絵本読み聞かせ会をやってくれないだろうか、こういう事をやってくれないだろうかとお願いするんですけど、先生の退職した人が地域で活躍してくれる事を願いながら運動しております。そんなので皆さんも応援していただけたらありがたいなと思っております。30年も40年も幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生されてきて、それが再度活かされる、地域のために活かされるように願って活動しているんですけど、私もあと何年生かされる

か分からないので、60で終わった人が活躍してくれたらありがたいなと思って、そんなのを描いております。以上です。

(谷委員)

今森本委員さんがおっしゃった事とほぼ同じでございます。振興計画にもありますが、家庭・学校・地域の協力体制という事で、学校だけでなく地域の人々と関わる豊かな学びの推進というのが一番最初にありますが、やはり今、退職された先生に限らず、地域におられる高齢者の方とか、いろんなお仕事をされてる方と常に顔を合わせて、どこの誰だと分かるような昔のようなつながりを持つという事が、小松島の郷土愛というものも生み出すと思いますし、「小松島いいな。」というような、先ほど申し上げたような事が生まれて来るんじゃないかなというふうに思っております。ですので、私の周りでも仕事柄、人間関係が希薄になってるんじゃないかなというのがやはり。特に申し上げますと、私の仕事上思う事がよくあります。地域の人だけでなく、親族だけでも希薄になるような社会がどんどん進んでいっているというのが我々の仕事関係者の中の話でもございます。やはり人間関係のつながりとか、生きて行く上で一番重要なものだという事を再認識するような、そういう教育の大きな方針として持っていけばいいんじゃないかというふうに考えております。以上です。

(渡部委員)

教育方針というか、理念なり、目標を定めることは大変大切な事で、それに従ってやろうとする、努力目標を持つということは大事だと思います。だから、どのように実践できいくかというところをきちんと検証して、どの程度どうかという事で地域ぐるみと言うか、協力を得ながら助けあったり、人間である以上いくらコンピューターが発達しても、やっぱり何が違うかと言うと、心が機械にはありません。人間の心を育てるという事は、小さい子どもに自己肯定感を持たせるという教育を小さい時から、認めてあげて、聞いてあげて、絶対に無視しないという、どんな事を言っても、子どもはいっぱい語りかけたい、訴えたいというところが沢山ありますけれども、忙しさにかまけて放っておいたりすると心を閉ざしてしまいますので、そういうところをいろんな目標とか、全部教育に関して心を育てるという、人間性を育てるというところに結びついていっていると思うので、先程の就学前教育もそうですけど、しっかり心を育てるというところに入れたら、どの勉強がどれだけできたかというんではなくて、心がしっかりすると相手に対する思いやりとかも本当に違ってきますし、悲惨な事件とかも起こりにくいと思いますので、さっき森本先生もおっしゃられたように先生方が子どもの心を育てるという事を一番に私はやってもらいたいなと思っております。以上です。

(東根委員)

3人の先生方と重なる部分が多いかと思うんですが、基本計画では目的がしっかりとされておりまして、今の急激な社会情勢の変化にどれくらい伴って協力ができていくのか、そういう、目的によっていろんな方針、プログラムが組み立てられていて、素晴らしいなあと思いました。

(濱田市長) 教育長お願いします。

(吉岡教育長) まず、振興計画、それから外部評価の方の点検評価。特に振興計画の方は4回にわたって審議委員さん、それも事務局の提示した内容によるご意見をいただいて、持ち帰って煮詰めて煮詰めてという事で、市が目指す方向性っていうのは全て網羅できているふうに思います。関係者の方にお礼を申し上げたいですし、教育委員さんのご意見を聞きながら出来上がったものです。だからあとは実際にそういう理念・目標がありますので、これをいかに、先程来話ありましたけども、順番に降ろしていったって1つでも充実した中身の実践を進めていくか、これは教育委員会だけでなく、ある面では市長さんとの協力っていうか、支援もいただきながら進めていかなければいけない面もあるかと思えます。

先程幼稚園・認定こども園での英語教諭等のお話がありましたが、ご承知の通り英語教育ひとつとっても2020年オリンピックの年にですけども、パラリンピックの年ですけども、その時点では小学校の3年生、4年生から外国語活動が始まっている。5年生、6年生は教科として形を取っている。時数的にも5、6年生は2時間程度、3、4年生は1時間程度。英語教育のあり方っていうのは、先行実施を考えれば4年後と言うのではなく、来年、再来年からALTを含めた本市での英語教育というのを文言としては明記はしてますけど、実際には具体的に進めていく時にはご相談をしなければ。もちろん教育委員さんの意見も聞きながら。そういう事で全てこの中に網羅されていると思いますので、一つ一つ実施していく方向で、ご意見を聞きながら、また、市長さん、市長部局、財政等々連携を図りながら進めていきたいというふうに思っています。よろしくお願ひいたします。

(濱田市長) はい、どうもありがとうございます。今、森本先生も言ったように郷土に誇りを持った子ども達を育ててもらいたい。それと先生、60で退職されるんで、その人が指導をできるような方向性を持っていただきたい。

また、私立の認定こども園が3園になります。公立が1園、幼稚園が4園、保育所が5園という事で、その先生の交流とかはされているのかなあと。他の教育の現場を見てもらって、どういうふうな方向性が良いっていうのを見ていかないとわからないと思うんです。特に私は農業分野でありますけども日本全国、九州から北海道までの産地を見るんですよ。見たことによって勉強になるんで、ぜひ認定こども園、幼稚園、保育所の先生との交流とか、もしできるんだったら、私立でも公立でもいいし、その交流をね、もっと進めて全体に、小松島の子ども自体が全体がレベルが上がるように作っていただきたいと思えます。

そしてもう1つ、点検・評価報告書の1番に教育長も持ってきていただいたように、施設の充実という事で、例えば、トイレについていうと、洋式を各階男女1つずつ設けるなど、教育施設の充実は大切だと考えております。やっぱり、施設の充実って一番大事な事なんですよね。例に挙げたトイレっていうのは自然現象なんで、きれいだと行きやすいんですよ。だから教育施設の充実については、早期に整備できるように担当課として頑張っていたいただきたいと思えます。

(西照教育政策課長) 2点ほど、まずは人事交流の話でございます。公立の幼稚園と保育所、認定こども園を含めてなんですが、28年の4月から幼稚園の教諭と保育士さんという事で、幼稚園の教諭をさかの認定こども園に派遣をしておるような形です。次年度以降、公立間、保育所と幼稚園については拡大の方向で協議はしておりますが、どうしても人の交流、身分上含めた民との交流っていうのは非常に難しいところがあります。ただ、現場の施設と施設の交流っていうのは可能かと考えておりますので、そのへんについてはまた協議をしていきたいというのが1点。

それと、今市長から、例えばということで、トイレの話がありました。今後、整備計画っていうのを、市長がおっしゃられたように洋式を各階に1つという事で計画を作って、どのタイミングで計画を作って設計額っていうのはあると思うんですが、今後の検討とさせていただきたいと考えてます。ただ、大規模改修になりますと、建設計画っていう、県を通じて国に上げていくというのがございます。事業費積算と補正予算のタイミングも含めて、今後、考えていきたいと思えます。

(濱田市長) はい、ありがとうございます。あと、協議何か。

〈谷委員途中退席〉

(渡部委員) 市長さんを真正面に眺めて、バッジの横にこまポンのバッジがあったら市のアピールになるのではないのでしょうか。県外行く時とか、小池さんじゃないけど、襟にいつもこまポンつけて、私も行ってもいいかなと。かわいいイラストなので。

市の花のハナミズキもきれいだなと思えました。ハナミズキだったら付けられるかなとか思ったので、ちょっと何か考えていただけたらと思えます。

(濱田市長) はい、ありがとうございます。

(藍沢秘書政策課長) どういうものかいいかっていうのは、市として一番イメージできるようなものが一番ふさわしいと思えますし、市の特性を表すものを。その辺の部分を含めて内部協議からはじめて。

(濱田市長) これ気に入ってるんですよ。「ええでよ、こまっしま！」っていうの。

(藍沢秘書政策課長) 「ええでよ、こまっしま！」は、第4次総合計画の時のですね。たぶん50周年記念の時に。原画はありますけども、最近あまり使っておりません。ホームページの方には入っておりますけれども。どういものかいいかは、また検討させていただきたいと思えますので、よろしく願います。

(濱田市長) 他に委員さん、何か。

それでは無いようですので、協議報告事項については以上で終了いたしました。これを持ちまして、平成28年度第3回「小松島市総合教育会議」を閉会とさせていただきます。本当に長時間にわたり、協議ありがとうございました。